

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

1000
2000
1000

電力 50 174
60 137

10.00 西...
12...
900
700 T
7.60
1.800
100,000 T

50 116.700

60,000
120,000
3,000
理由

三、金石製鉄所

建設並ニ復旧工事
石灰窯工場
理由
完成予定 二一年一月
生産予定 五〇〇〇t/年
二年三月一五〇〇〇t/年

第十高炉、第二散炭炉並ニ附帯設備
修理能力範圍内ニ於テ復旧修理ス
一基作業
製造量 七〇〇〇t
八〇〇〇t

4 煉鋼工場、線材工場作業
理由
鋼材生産見込 一四〇〇〇t

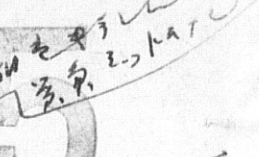
理由
西三精製完成後八回炉保完行、夕メ輪西第四精製八休止ス
出鋼見込 二〇〇〇t/日

輪西第四(三、七、七)輪西第五(三、八、八)以降
製造見込
五月 七〇〇t
六月 八〇〇t
七月 九〇〇t
八月 一〇〇〇t
九月 一〇〇〇t
十月 一〇〇〇t
十一月 一〇〇〇t
十二月 一〇〇〇t

理由
不測ナル散炭炉停止シテ出鋼量ヲ制限シ減少分ハ他煉鋼所
ニ於テ出銑スル事ヲ考慮セラルルモ北海道炭増産セラルル場合
本年末頃ニテ考ヘ(最低限度ノ)高炉作業ヲ継続セントス
他、西三精製ニテ輪西高炉ヲ稼働スルモ長期休風セル結果再
相、困難視セラルル故ニ操業ス可キ高炉ハ輪西高炉再開試験
結果ニ依リ決定ス

一基作業
出銑見込
五月 一五〇〇t
六月 二〇〇〇t

日鉄各煉鋼所ノ作業方針ニ関スル件
昭二一五三〇 技術部



理由

②
由分高炉ヲ稼働セシメル程度、配炭見込ナキヲ以テ第二鉄炭炉
一基稼働シ炭炭ハ一般需要ニ外売ス之ニ要スル原料炭月当最低所
要量六〇〇〇化
4. 平 三〇化平炉一基作業
生産見込 一〇〇〇〇化月

理由

5. 平 堀製送ス
理由
タルニ〇〇化及ビ微粉炭八〇化ヲ使用シテ一基稼働シ小型鋼
5. 平 中小形工場作業
生産見込 八〇〇〇化月

理由

6. 工作工場
理由
加熱炉用瓦斯不足ノタメ石炭焚、加熱炉ヲ使用シ鋼材生産ニ努
力ス
理由
平 必要ハ勿論、外部注文ヲ受ケ増産ヲ計ル

三 富士 製鋼 所

1. 建設並ニ復旧

(1) 四段冷間ロール機

大谷ヨリ直ニ取寄セマ司令部、許可アリ次管道ニ取付ケ得ル様手
配シ置ク

(2) 鋼線工場

最近鋼線コンクリート鋼材、ワイヤロープ、正鋳鉄線等、冷間引抜鋼
材多量ニシテ八嘴ノ能力不足ニ故ニ取急ギ富士ノ鋼線工場ヲ自力
ヲ以テ復旧ス

理由

2. 電力
理由
電力不足ト鋼塊處理ノ關係上管分休止ス
3. 平 延 小形工場休止
理由
平 鋼工場作業 生産見込 九〇〇〇化月

理由

最近見込ノ物資製造材料並ニ一般製工器具製作材料トシテ帶鋼
需要旺盛ナルヲ以テ当所トシテ八全カヲ帶鋼増産ニ集中ス
（現在常盤製作業ナルモニ交代作業スル様指令済ミ）

四 大阪 事務 所 大阪工場

理由

現状
（但シ鍛冶仕上ニ経驗ナル職員一名補充ノ要アリ）

五 廣 畑 製 鉄 所

第一段階

1. 熔鋸炉

2. 平 炭 炉

3. 平 炭 炉

4. 平 炭 炉

理由

高炉稼働可能程度ノ配炭見込当分困難ナルヲ以テ二號炭炭炉
7. 操業シ炭炭ハ一般需要ニ外売シ一方化成品ノ積極的増産ヲ計ル
理由
所 炭見込量 九〇〇〇〇化月
三 炭見込量 五五〇〇〇化月（外売）

ベンジール類 五四〇〇
 硫酸 六三〇〇
 タール 三六〇〇
 第二段階へ昭和二十一年十一月頃見込
 一基作業 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)

本年末頃トモナレバ配炭増加モ見込マルルヲ以テ月当リ原料炭三五〇〇〇化ヲ使用シ第一高炉ヲ再開シ出銑月九〇〇〇〇化生産スルモノナリ
 2. 散炭炉 二基作業 一五六〇〇〇 (但外売五〇〇〇〇化ヲ色入)
 3. 平炉 一基作業 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)

4. 平炉 瓦斯不足、タノ製鋼圧延ハ交互作業トス
 今地工場及連続ロール作業
 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)
 理由 瓦斯ノ関係ヲ平炉ト交互作業ヲナシ半成呂製成シ外売或ハ他作業所ニ分譲ス(都合ニ依リテハ厚板ヲ製作シトトハトシテ外売モ可能)
 5. 化成呂 歩留モ良好ナルヲ以テ積極的ニ増産ヲナス

八八 熔鉄所

1. 熔鉄炉 三基作業 (十月以降ハ四基作業) 一基ベンキヤ
 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)
 理由 現状配炭ト持込(二)依リ上託、如ク考フルモノナリ尚十月以降ハ幾分増炭ヲ見込マルルヲ以テ四基作業トシ日産七五〇〇化トナル見込(但十月ハ六〇〇〇化) 尚現在散炭不足分ハ貯散使用中

2. 散炭炉 二基作業 一基ベンキヤ
 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)
 理由 高炉、場合ニ同ジ 尚六月以降ハ原料炭一七〇〇〇化最低必要トス十月以降ハ二六〇〇〇化必要ナリ

3. 平炉 第二製鋼工場作業
 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)
 理由 上託出銑ト優良生産炉配炭セラルル場合ハ前記生産可能ニシテ本社トシテハ優良生産炉、入手ニ極力努力ス
 生産見込 五月(一五〇〇) 六月(一五〇〇) 七月(一五〇〇) 八月(一五〇〇) 九月(一五〇〇) 十月(一五〇〇) 十一月(一五〇〇) 十二月(一五〇〇)

4. 平炉 需要鋼材ノ品種十法判明セザレバ作業工場並ニ生産量決定難キモ前記鋼塊ニ依リテ略文、如キ鋼材生産量トナル見込ナリ
 四五月(一四四〇〇化) 七月(一五〇〇〇化) 十月(一五〇〇〇化) 十一月(一五〇〇〇化) 十二月(一五〇〇〇化)
 尚瓦斯不足ノタメ極力加熱炉ヲ石炭焚ニ改造シ鋼材ノ増産ヲ計ルモノナリ

5. 平炉 經理的ニ八幡製鉄所ト別計算トシ所内ノ需要ハ勿論前外註
 文ヲ受テ積極的ニ増産ヲ計ル
 (特に此域的ニ鉄山機械並ニセメント機械製作ノ点)
 以上